

吉平ほうほうの身で逃げで帰っただど。

また、ある時、坂下の町はずれの一杯飲み屋でもつきりひっかけでいだら、隣で飲んで
いだいさまの財布の中身がふくらんでいるのに目をつけただど。

吉平いつもの悪知恵出して、

「じいさま、一杯飲まんしょ。これは、おれのおごりだから。」

と言って飲ませているうちに、じいさまベロンベロンに酔っ払ってしまっただど。

「これは、しめた。」

と思った吉平は、ソーツと財布をじいさまのふところから抜き取って、帰る途中に財布の
中の銭だけ盗って空の財布を鶴沼川に投げて帰っただど。

次の日、じいさま我に返ってよくよく考えてみたら、財布が無くなっているのに気がつ
いて、

「これは、大変だ。」